

授業科目名 科目コード	英文学 (English Literature) 131026-14-000					担当教員	関 義夫 (セキ ヨシオ)		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	1 年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

## ① 授業のねらい・概要

イギリス小説の中から数作品を取り上げ、「小説を読むとはどのような行為なのか」ということについて、小説の技法に注目しながら考える。小説技法（リアリズム、意識の流れ、インターテクスチャリティ、視点など）に注目することにより、小説という虚構世界の人工性について理解する。  
学期末試験のほかにレポート提出あり。

## ② ディプロマ・ポリシーとの関連

コミュニケーション能力

## ③ 授業の進め方・指示事項

1. 講義形式で授業を進める。
2. 15 回分のプリント資料をまとめて配付するので、毎回必ず持参すること。
3. 指定図書からのレポート提出あり（提出期限厳守）。指定図書については授業で指示する。
4. 授業中に紹介する作品については、図書館等を利用し、事前または事後に必ず目を通しておくこと。不明な文学用語は図書館所蔵の文学辞典やインターネット等を利用して、各自、調べること。

## ④ 関連科目・履修しておくべき科目

特になし。

## ⑤ テキスト（教科書）

プリント資料使用（授業開始時に 15 回分をまとめて配付予定）

## ⑥ 参考図書・指定図書

トマス・ハーディ『テス』、ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』、メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』、H.G. ウェルズ『タイムマシン』、ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』、マイケル・カニングム『めぐりあう時間たち』、上田和夫編『イギリス文学辞典』（研究社）

## ⑦ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安

- (i) 「小説を読むとはどのような行為なのか」について自分の考えを論理的に説明できる。
- (ii) 小説技法（リアリズム、意識の流れ、インターテクスチャリティ、作者・テキスト・読者の関係、視点など）について、自力で調べたり、説明したりできる。小説の「人工性」、「枠組みの恣意性」についても理解し、説明できる。
- (iii) 【レポート提出】：「読み」の多様性を理解し、指定図書を読んで自分の考えをまとめ、論理的に説明できる。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 「小説を読むとはどういう行為なのか」についての自分の考え	「小説を読むとはどういう行為なのか」について、自分の考えを論理的にまとめ、適切な表現方法も選択できる。	「小説を読むとはどういう行為なのか」について、自分の考えを論理的に説明できる。	「小説を読むとはどういう行為なのか」について、自分の考えをまとめ、他者に説明できる。	「小説を読むとはどういう行為なのか」について、自分の考えをまとめようと努力しているが、表現方法や構成が不十分でうまく他者に伝えることができない。	「小説を読むとはどういう行為なのか」について、考えていない。単なる印象を羅列しているだけである。
(ii) 小説技法の理解	小説の技法に関する専門用語を理解しており、授業内容を越えた学修成果を示している。	小説の技法に関する専門用語を、自力で調べたり、説明したりできる。	小説の技法に関する専門用語を、配付資料を見ながら説明できる。	小説の技法に関する専門用語の理解は不十分であるが、配付資料のどこに載っているかはわかる。	小説の技法に関する専門用語がなにか、配付資料を見てもわからない。
(iii) 【レポート提出】：「読み」の多様性の理解と自分の考えのまとめ	レポート作成の趣旨を理解し、自分の考えを論理的にまとめ、適切な表現方法も選択できる。	レポート作成の趣旨を理解し、自分の考えをまとめ、論理的に説明できる。	レポート作成の趣旨を理解し、自分の考えをまとめ、他者に説明できる。	レポート作成の趣旨の理解が不十分だが、課題図書を読み、レポートを作成しようと努力している。	レポートは提出したが、課題図書を読まないでネット上の情報を剽窃、加工しただけである。または、レポートを提出しなかった。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%			35%		15%		100%
(i) 「小説を読むとはどういう行為なのか」についての自分の考え	30%							30%
(ii) 小説技法の理解	20%							20%

(iii)【レポート提出】:「読み」の多様性の理解と自分の考えのまとめ				35%		15%		50%
フィードバックの方法	学習の進捗状況を見て、理解が十分でないと思われる項目に関しては、関連個所の追加プリントの配付や画像資料を用いての解説も行う。							

⑩ 担当教員からのメッセージ (昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)
<p>1. 授業内容を記したシラバスを十分理解したうえで履修登録をすること。</p> <p>2. 授業への出席だけでなく、授業時間以外に自分で自主的に行わなければならないレポート作成(指定図書を読んで自分の考えをまとめる)が要求されるので、よく考えて履修登録をすること。レポート作成には、かなり時間がかかる。作品の粗筋を書いただけのレポートは、合格点が見つからない。</p>

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間(分) (※特別な持参物)	
1	イントロダクション (15回授業の概要等の説明)	「小説を読むとはどういう行為なのか」について自分なりに考えてみる。	120分
2	授業で取り上げる小説家たちについて	プリント資料番号1~14を読んでくる。	120分
3	レポート課題小説の粗筋について	プリント資料番号15~25を読んでくる。	120分
4	小説の技法①(19世紀リアリズム小説)	プリント資料番号26~30を読んでくる。	120分
5	小説の技法②(20世紀初頭の実験的小説、意識の流れ)	プリント資料番号31~39を読んでくる。	120分
6	小説の技法としての「語り」の変化について	プリント資料番号40~42を読んでくる。	120分
7	「視点」に関するモデルの一例紹介	プリント資料番号43~52を読んでくる。	120分
8	「作者」は消し去れるかという議論について	プリント資料番号53~58を読んでくる。	120分
9	トマス・ハーディ『テス』について	プリント資料番号59~78を読んでくる。	120分
10	『ダロウェイ夫人』と『めぐりあう時間たち』について	プリント資料番号79~83を読んでくる。	120分
11	ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』について	プリント資料番号84~93を読んでくる。	120分

12	マイケル・カニンガム『めぐりあう時間たち』について	プリント資料番号 94～107 を読んでくる。	120 分
13	「作品（テキスト）」、「作者」、「読者」の関係について	プリント資料番号 108～138 を読んでくる。	120 分
14	文学作品の映画化について	プリント資料番号 139～149 を読んでくる。	120 分
15	まとめ	プリント資料番号 1～149 (15 回分) 全体を読んで理解する。	120 分

### ⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL

1. 小説の技法についての基礎知識の確認及び定着を目指す。
2. 指定図書からのレポート（課題）提出を求める。

※以下は該当者のみ記載する。

### ⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性